

やさしさ溢れる 臨川小学校

副校長 安田 明子

この度ご縁がありまして、区内の神宮前小学校より転任してまいりました副校長の安田です。歴史と伝統ある臨川小学校への着任を大変光栄に思っております。副校長として4年目、教師生活9校目となる私ですが、臨川小学校へは足を向けたこともなく、4月は何も分からない中でのスタートでした。

「なんにも知らないことはよいことだ。」とは、世界を探検した碩学の民族学者、梅棹忠夫の言葉です。「なんにも知らないことはよいことだ。自分の足で歩き、自分の目を見て、その経験から考えを発展させることができるからだ。」と続きます。思い返せばこの2か月、校内や地域を歩き、様々なものを見て、いろいろな人と出会う中で、私も多くのことを感じ、考えることができました。

臨川小学校は「やさしさ」溢れる学校です。

まず感じたのは、子供たちの「やさしさ」です。素直で穏やかな子供が多く、とても可愛らしいです。先日、担任教員が休んだクラスに、急遽国語の授業に入りました。授業後、子供たちが何人も私の元へ来て、「副校長先生、授業してくれてありがとうございます。」「ありがとうございました。楽しかったです。」とお礼の言葉を伝えてくれたのです。大変嬉しく、心が温かくなりました。また別の日には、避難訓練で私が講話をすることになりました。避難訓練は命を守る大切な勉強ですよ、という話をしている間、子供たちは目をこちらへ向け、しっかりと聞いています。そして、話が終わると拍手をしてくれたのです。純粋な心をもっている子供たちと一緒に学校生活が、とても楽しみになりました。

次に環境の「やさしさ」です。人工芝で守られた校庭、咲き薫る色とりどりの花々、併設される幼稚園、隣接する図書館、落ち着いた街の雰囲気、昔の面影を残す商店街…。どこを見ても「やさしさ」が感じられます。校内巡視では、きれいに清掃された校舎の随所に職員の気配りが感じられ、つくし学級の廊下の掲示物からは、自然物を愛でる心が伝わってきます。

さらに、教職員の「やさしさ」です。4月当初、臨川小学校の「ヒト・モノ・コト」が分からず戸惑う私を見つめる目が温かく、たくさん助けていただきました。臨川小学校を支える70余名の教職員の「やさしさ」が「やさしい」子供たちを育くんでいると確信しています。今後も職場の同僚性を大切に、明るく楽しい職場づくりに貢献していきます。

末筆になりましたが、保護者・地域の方の「やさしさ」についても、お目にかかってお話できる機会が増える中で、分かってきました。PTA執行部の皆さんは、このコロナ禍と、変わりゆく時代に合った活動の方法を模索し、子供たちのために真剣に考え行動してくださっています。また、学校運営協議会、地区委員会、町会の方々等、地域の皆様が臨川小学校を愛し、見守ってくださっているということも痛感しています。

本校の教育目標は、「やさしく」「つよく」「かしこく」です。やさしさ溢れる臨川小学校は、今年度は「かしこく」を重点目標とし、チームとして協力し、教育活動を推進していきます。

私もまだ失敗が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、子供、教職員、家庭、地域をつなぐ要として、皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。

少しずつ分かりあえる、これからを信じて。